

黒田

市指定文化財 中野梅市(雪花亭梅市)建立の句碑

雪花亭梅市(1762～1829年)は、江戸時代に活躍した駿河国(静岡県)を代表する女流俳人です。

本名を「光(美都)」といい、黒田村(現在の黒田)の名主「中野与十郎」の妻でした。

寛政5(1793)年、美都は領主「渡辺右衛門」に命じられた夫とともに、江戸に移住しました。

江戸では、松尾芭蕉や小林一茶とも関係する当時の俳句界では名門中の名門の葛飾派の加藤野逸(俳号*「東都葛飾七十八翁」)を師に俳句を学びました。

その後、俳号「雪花亭梅市」を与えられました。

黒田村に帰った梅市は、文化2(1805)年、本光寺に師である野逸の句碑を建てました。

句碑には、「手をあはす教や今もかしハ餅(東都葛飾七十八翁野逸)」と刻まれ、市指定文化財となっています。

※俳句を作る際に使う名前

手をあはす教や今もかしハ餅
東都葛飾七十八翁野逸

本光寺に伝わる日蓮の柏餅の故事*の教えは、手を合わせ祈る人々に、今も変わらぬ教えとして導いてくれる。

※柏餅の故事

日蓮聖人がこの地を訪れ、公孫樹の下で休んでいると、近くに住む夫婦が柏餅と麦酒でもてなした。その夫婦が子どもを育てるのに乳が出ずに困っていることを知った日蓮聖人が祈ると、乳が出るようになった。これを縁に夫は日蓮聖人の弟子となって出家し、公孫樹のそばに本光寺を建立した。

歩く博物館Qコース<黒田・山本地区>

山本勘助と俳人梅市の里をたずねるコース

市役所6階文化課、郷土資料館(文化会館内)、出張所または市公式ウェブサイトなどにあります。

HP トップページ>市民の皆さんへ>教育・文化・スポーツ>郷土資料館>歩く博物館



雪花亭梅市の墓

梅市は、文化5(1808)年、俳諧入門の心得として「俳諧最初心得之条々」を執筆し、67歳でその生涯を閉じるまで俳諧の活動を続けました。

墓には、梅市が亡くなる前に詠んだ句「夢の世をゆめにもどして枯野哉」が刻まれています。

夢の世をゆめにもどして枯野哉

雪花亭梅市

この世は、もともと夢のような世界であるから、夢のように儚い世の中を、起きている時に見ている世界(夢)に戻しても、そこは一面の「枯野」原だ。



本光寺の句碑



梅市の墓



有料
ガイドブック

歩く博物館ガイドブック

全24コースの地図と解説付きです。

- 料 500円
- 申 市役所6階文化課、埋蔵文化財センターの窓口で
- 他 郵送で購入したい場合は、電話またはメールでお問い合わせください。
- 問 文化課 ☎22-1187
✉e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp

